

「標準手話」は手話言語研究所が皆さんに「提案」する手話単語です
私たちの手話言語生活が一層豊かになりますことを願っています

1. 標準手話の種類

ひょうじゆんしゅわ 標準手話

保存手話

ろう者の間で伝統的に使われている手話。

意外、思いがけない、知らなかった、初めて知った、へえー(感動詞)、ほう(感動詞)



創作手話

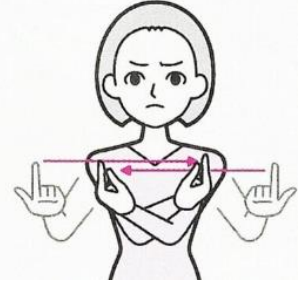
日本語に対応する手話単語として新しく創る手話。

以下の4つの作り方がある。

(ラベルの追加)

すでにある標準手話に、対応する他の日本語を追加する。

リベンジ
復讐「する」、恨み、恨む



組み合わせ

2つ以上の手話単語を順番に並べる。

原文



+

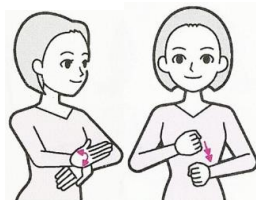


〈基づいて〉+〈文章〉の組み合わせ

合成

2つ以上の手話単語を1つの表現に合成する。

酪農



左〈チーズ〉・右〈作る〉の合成

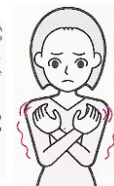
アレンジ

1つの手話単語の一部を変更する。

冷却「する」、冷やす



冬、寒い、冷たい



〈寒い〉のアレンジ

新規

まったく新しい手話を創る。

もぐり



動物の動きから創作

標準手話確定の原則

- 1 概念(日本語で表せる意味)を的確に表現したものであり、視覚的に理解しやすいこと
- 2 簡略な動作で表現できること
- 3 他の手話単語と区別できて、紛らわしくないこと

- ※ 専門用語や特定のコミュニティで使われる言葉(IT用語やLGBT関係の用語など)は、当事者の間で使われている表現を可能な限り取り入れる。
- ※ <課長>のように、性別によって<男><女>を使い分ける手話があるが、「人」を意味する表現として<男>で表すこともある。
- ※ ろう者の間で伝統的に使われている手話は、その伝統性を尊重して保存手話として確定することがある。

2. 標準手話の表現

公的な場では

標準手話を

大会、研修会、講演など、公的な場では標準手話を使用するのが望ましい。
ただし、災害や疫病に関するニュース放送など情報伝達の緊急性が高い場合は、その限りではない。

言葉は

日々変化する

<コロナウイルス>を確定した当時は2動作での表現としたが1動作目のみの<コロナ>だけで表しても伝わるようになった。
このように社会の変化に応じた表現が出現し普及する場合がある。

利き手の使用

標準手話のイラストは便宜上右利きの表現としている(手を動かすのは主に利き手)。左利きの場合は、左右を変えてみると表現しやすくなるかもしれない。利き手を中心に表現ができる。

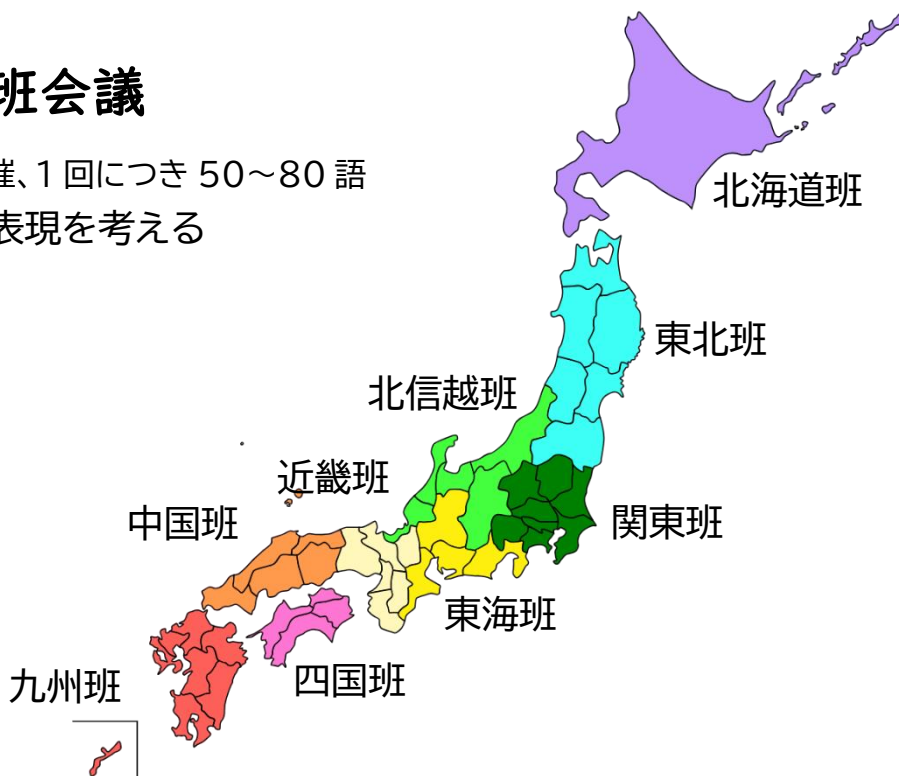
状況に応じて柔軟な表現が可能

話の内容、文の流れ、その場の状況、主語、上下関係などに合わせて、動きの強弱・方向・位置を変える、表情をつけるなどの柔軟な表現ができる。

3. 標準手話の確定の流れ

9 班会議

年3回程度開催、1回につき50~80語
標準手話の表現を考える



本委員会

年4回程度開催

9班が検討した表現をもとに、標準手話の案を考える

急を要する場合

パブリックコメントの募集

確定

標準手話の普及

ウェブサイトにて動画配信
(手話言語研究所)

「手話言語研究セミナー」の開催
(手話言語研究所)

『新しい手話』シリーズ本発行
(全日本ろうあ連盟・手話言語研究所)

『日本聴力障害新聞』『MIMI』への掲載
(全日本ろうあ連盟)

